

Genshin Impact fan book
楓原万葉×鹿野院平蔵

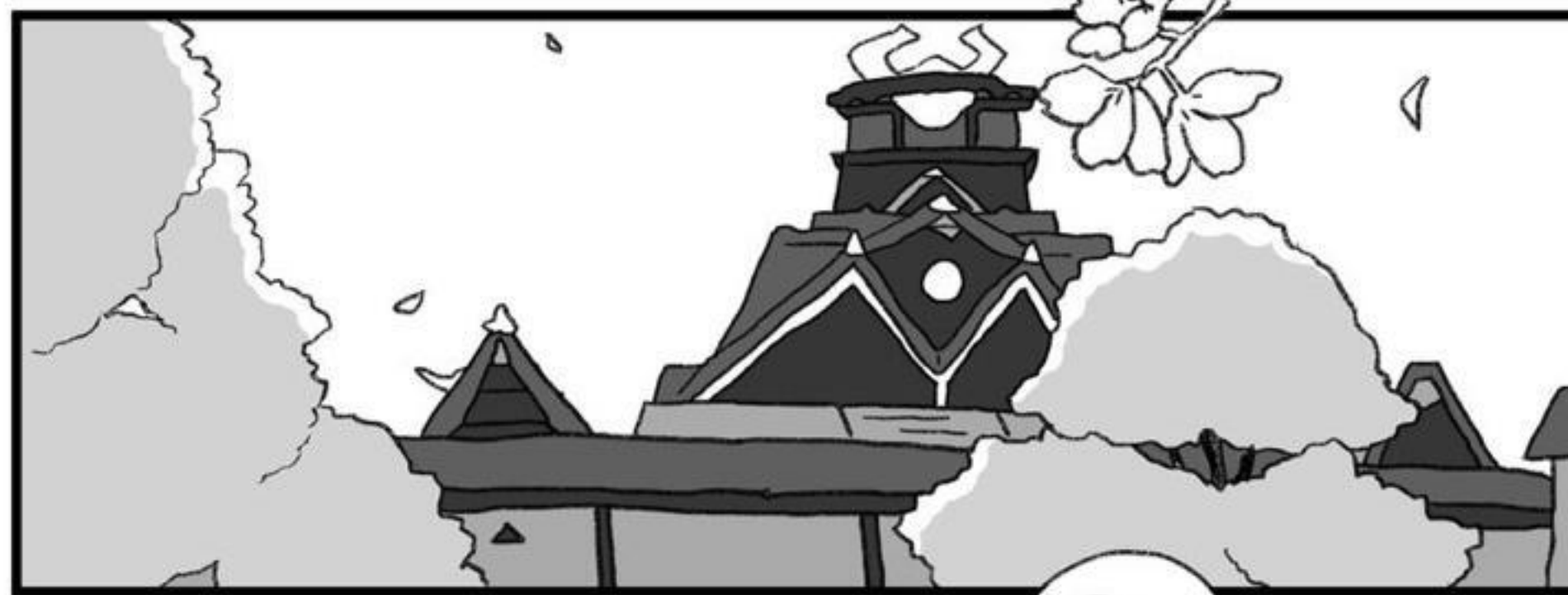
好きって
言ったら

崩壊

R15



久しく
故郷を訪れた



その日



んっ

友人に
接吻された



暴力表現、嘔吐表現などあります
なんでも好きな方向け

…
は

ずは

かずは



万葉

て

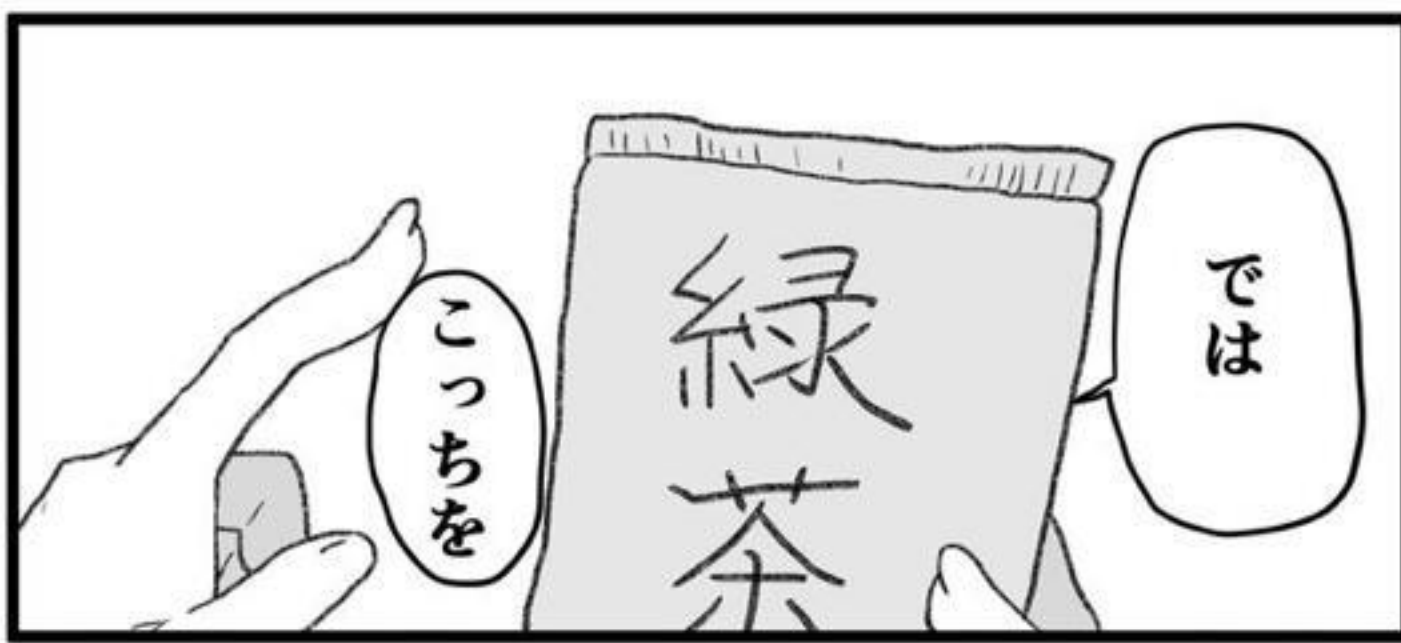
ばっ



きいてた？

すまぬ
何の話を？

あ
やっつぱり
きいてなかった！





さっきの
あれは





万葉



むしろ




むしろ？



胸が熱くなった？
嬉しくなった？

違う

心はまるで何にも
変わらなかった

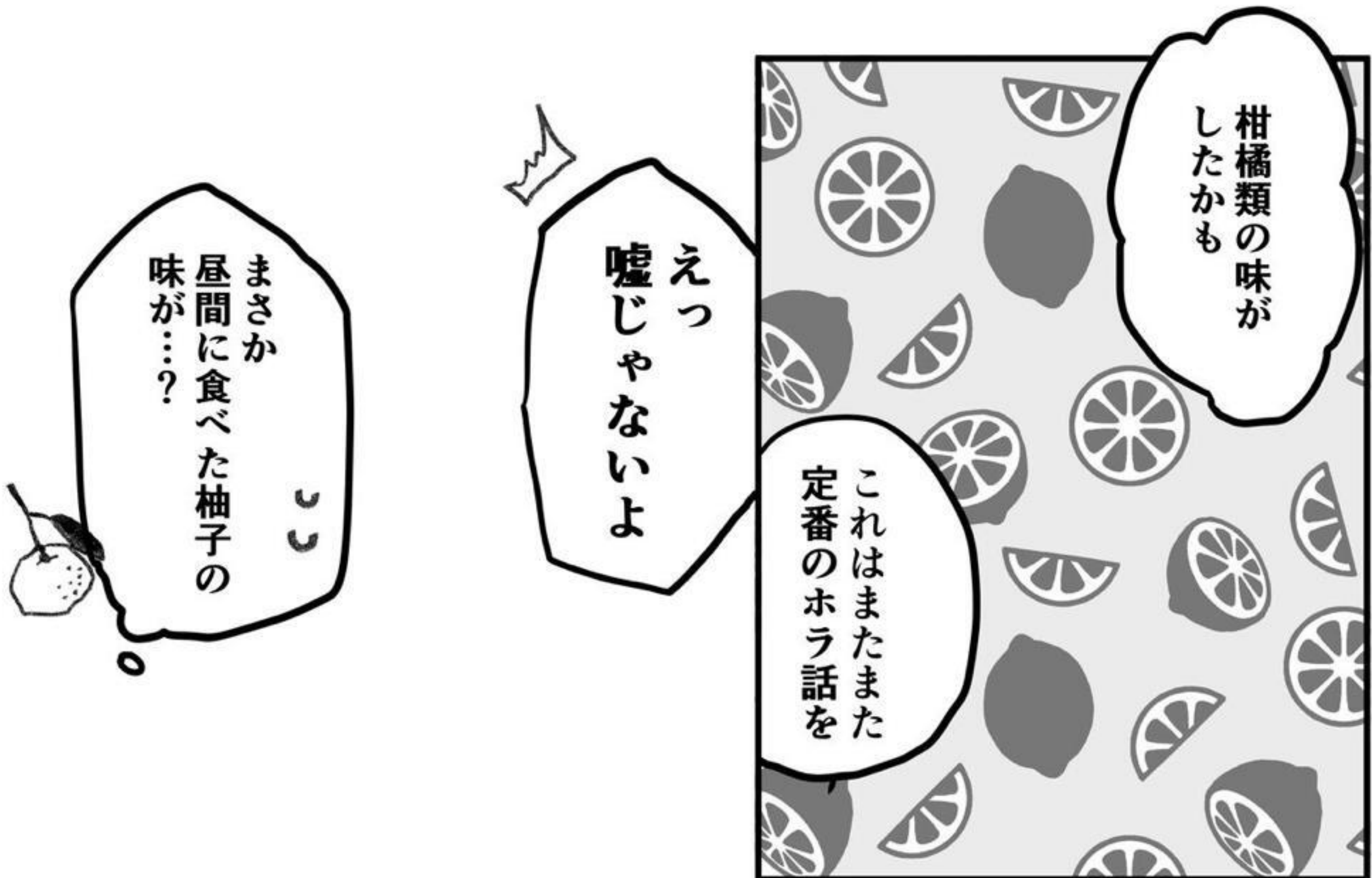


本来ならば
多少なりとも意識を
するものではなからうか

こんなに体温も
伝わる程近いのならば
尚更



万葉





そんなわけ
ないでしょ

というより
お主は味などの
感触の感想を
求めていたの
であろうか？



であるならば
どのような意図が…





やっぱり
緊張したし
怖かったよ



そりゃ僕から
キスしたけどさ




君にもしも拒絶されたら
どうしようって




なんて大袈裟って
思うかい？





ほら
今でもこんな
どきどきしてる

わかるかな？



改めて口に
出すのはちょっと
恥ずかしいんだけど

僕は
君が好きだよ
万葉

しかし

平蔵から
感じるこの
熱は…

やはり
嫌悪感を感じない

君はさ

何とも
思わなかった

だよね



え



ああ
そうかと



その時は
妙に納得している
自身がいたのだ

良き友人として
理解者として

間違いなく
彼を好いてはいる

だが彼のそれとは
決定的に違う



しかし
それでは…

僕の勤は
よく当たるだろ

ま
待て

お主は
それでよいのか？

ん？

接吻をしたという
事は特別に思っている
という事であろう？

そのような
相手が何とも思っ
ていないというのは…

些か…

だからこそだよ

だからこそ…？

簡単な理屈だよ

君は僕が
どうあろうとどうしようも
関係がないし関心もない

余計な期待だっ
てしてこないもんね

それもこれも
君が僕を何とも
思っていないから

友人以上でも
以下でもないから
こそ成しえてる

いいんだよ
万葉

君はそのまま



そのままとは
何を指して？

かような告白を聞いた
手前に拙者には友人の
ままできて欲しいと？



…っ

そっ



そうだよ



理解して
欲しいわけ
ではないし

嫌がられたり
しなれば
なんだって
いいかな



解せぬ

お主が
何を言っておるのか

あははっ

それでも
いいや



…こうして
くつついてる時に
突き放したりしない
とことかさ

そんな優しさが
あって

だけど
頼着はしない

ありのままの
君が好き



お待たせ!

お茶
入ったよ

うむ...
かたじけない

どういたし
まして



熱いから
よく冷まして...

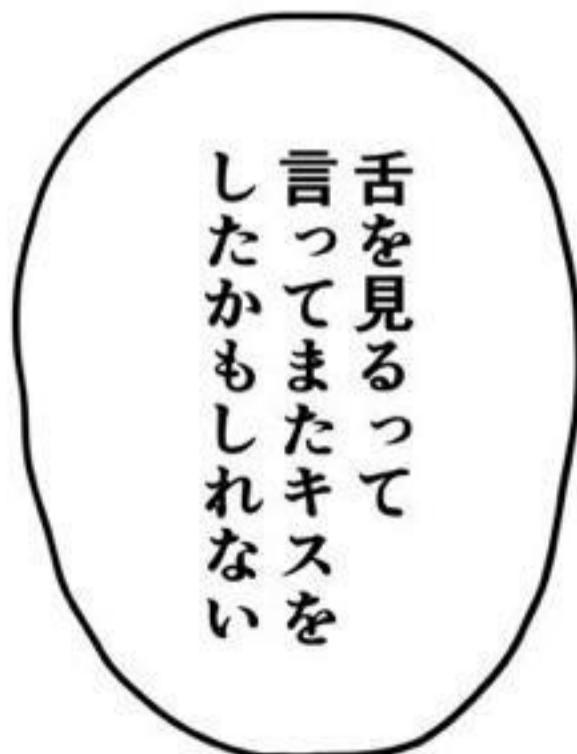
言わん
こっちゃんないなあ

う...
すまぬ



ず

ず





好き

それ以降
平蔵は

度々触れ合いを
要求してくる
ようになった



最初こそ意図が
分からなかったが
特段深い意味など
そもそもなかった
のだろう

彼はありのままの
自身を



とはいっても
接吻や抱擁の域を
出ることはない



何も取り繕わない
弱い自身を受け入れて
くれる者を求めていたこと

そのお目に留まったのが
拙者であっただけなのだ



それが分かった
ところで平蔵に
対して特別な熱を
持つことはなかったが



それでも
拒まないのは



本当に何とも
思っていないから
というのもあるが



求められて
悪い気などする
はずもない











平

今は…
拒否された？















苦しくはないで
あろうか？



はっ
少し苦しいけど
温かいよ

首を
触られてると
なんか安心するかも

ああ
好きだな

そうか



キスしたのに

首を絞めさせてるのに

そんなの何とも
思っでなさそう
どうでもよさそう
そんな君が

君は
何を
考えて
るの
かな

いや
違う
な

君の
考えて
ること
思っ
てる
こと
なんて
別に
なん
だっ
て
いい

君が
僕に
無関
心で
いて
くれ
さえ
すれ
ば

なん
だっ
て
いい
んだ





あ
また
あの感覚が

ドキ

ドキ

背筋を走る
あの痺れ



まるで
きそうな程の
心臓の鼓動と



手に伝わる
脈動と

まさか



この胸の
熱は…

ちびゅ

はあ

—



あ…
キス嫌がって
ごめ…っん



もっと
たくさんする

何故
拙者から求めては
ならぬのだ



え
そ

れは…

言わずとも
重々承知しておる

お主にとって
拙者は抱擁ができて
接吻ができて当然

頓着はしないが
当たり前に優しくして



そんな都合の良い
存在なのだろうか？



平蔵がどれほど求めて
期待したとしても

変わらず
なんであろうと
受け入れてくれる

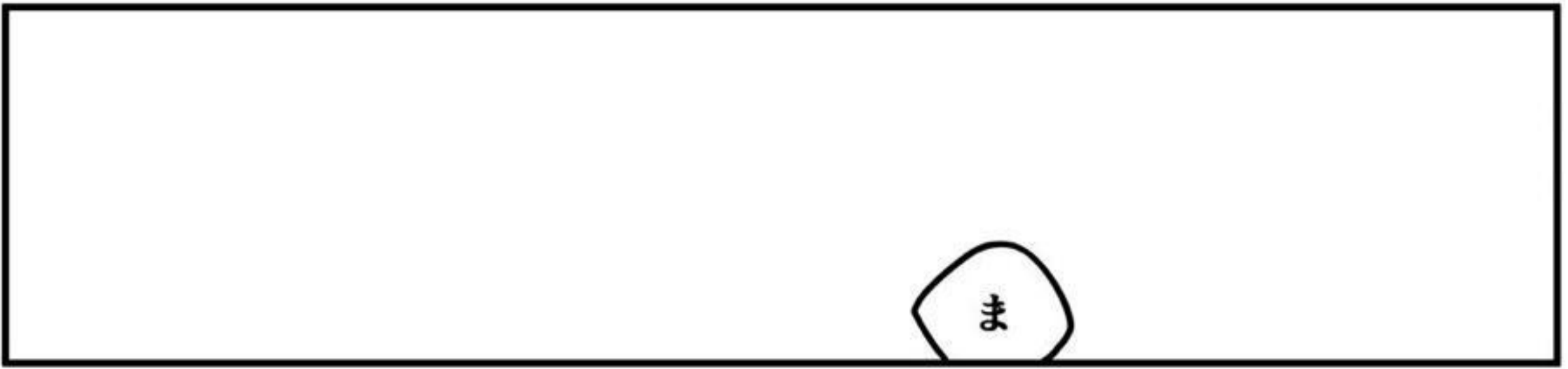




好きの
感情？









平蔵?



襟を直させて
欲しいのだが...

ゴッ...

おっ...



ん...

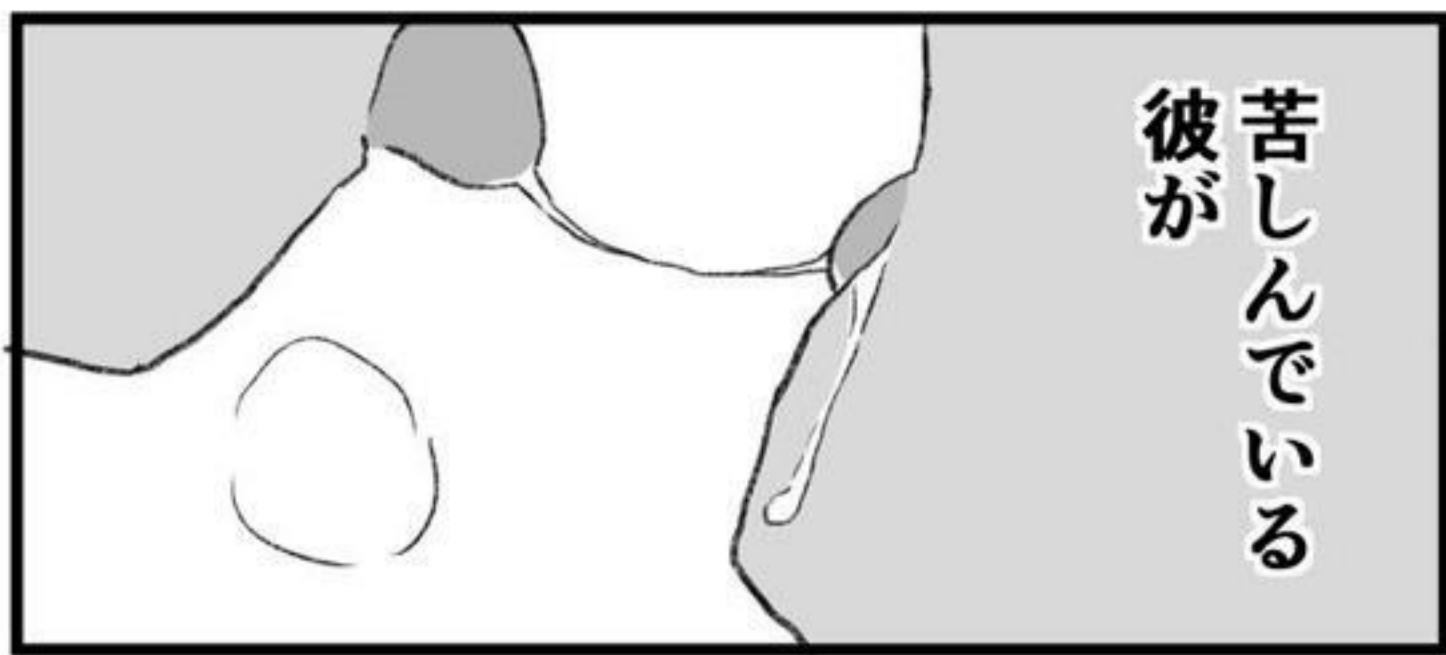
ん...

おっ...



好きとは
なんと面妖なものか

愛らしく...

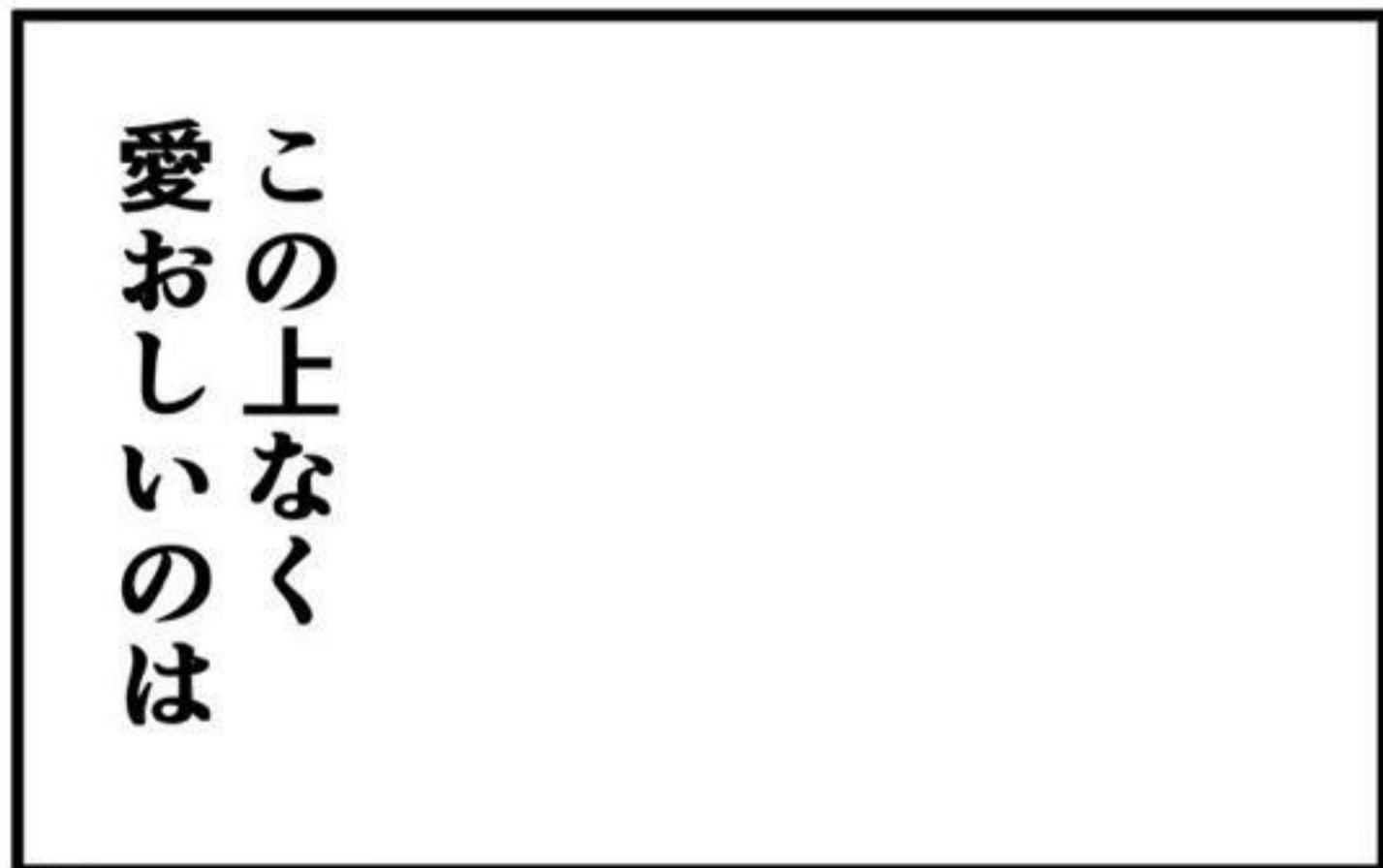


苦しんでいる
彼が



ちゅっ

ちゅっ



この上なく
愛おしいのは



拙者が
平蔵のことを

好きだという
証明だろうか

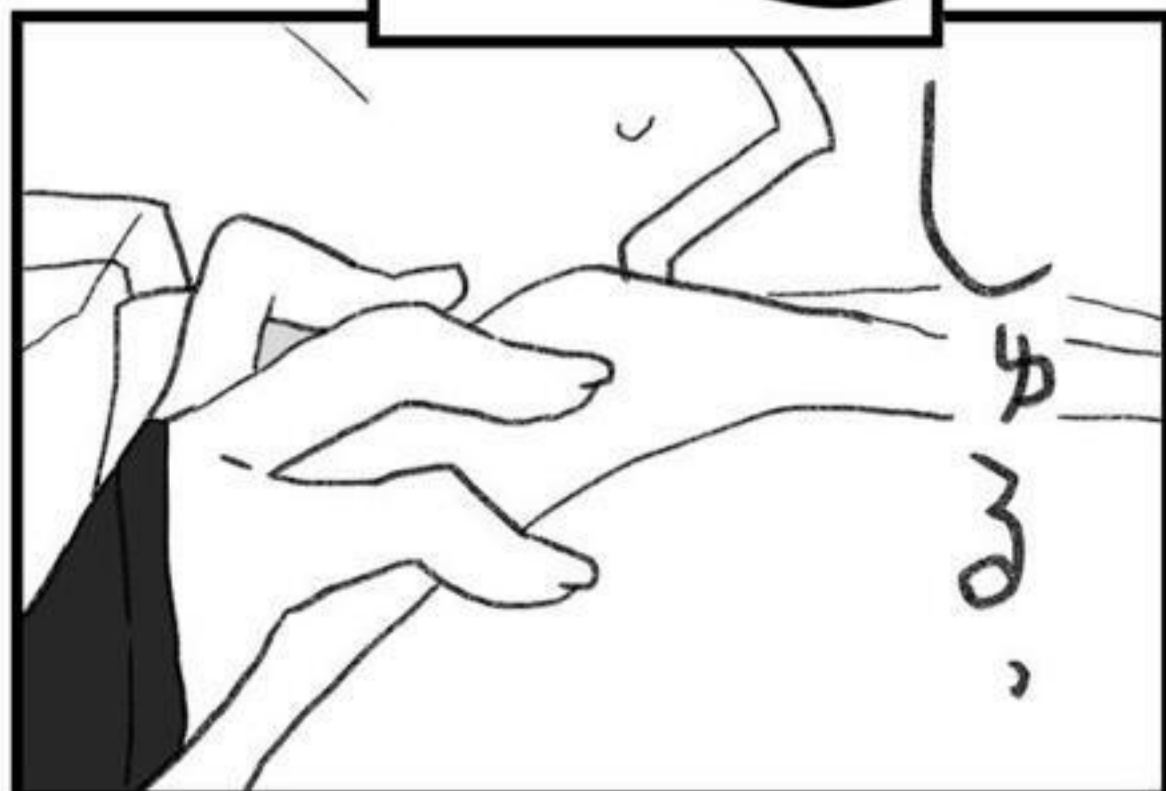
怖

はー

いさだ



も…
わかったよ…





は?



ねえ



熱が冷めていく



早くしてくれないかな



お主がそういうのであれば



ああ...



承知した



まだいつもの
興味なさそうな顔だ



あ

万葉もう
怒ってないのかな



あ

う

可愛いなあ

ビクッ



んっ

僕が早くしてって
言ったからして
くれてるの？

僕で全然興奮なんて
しないんだね









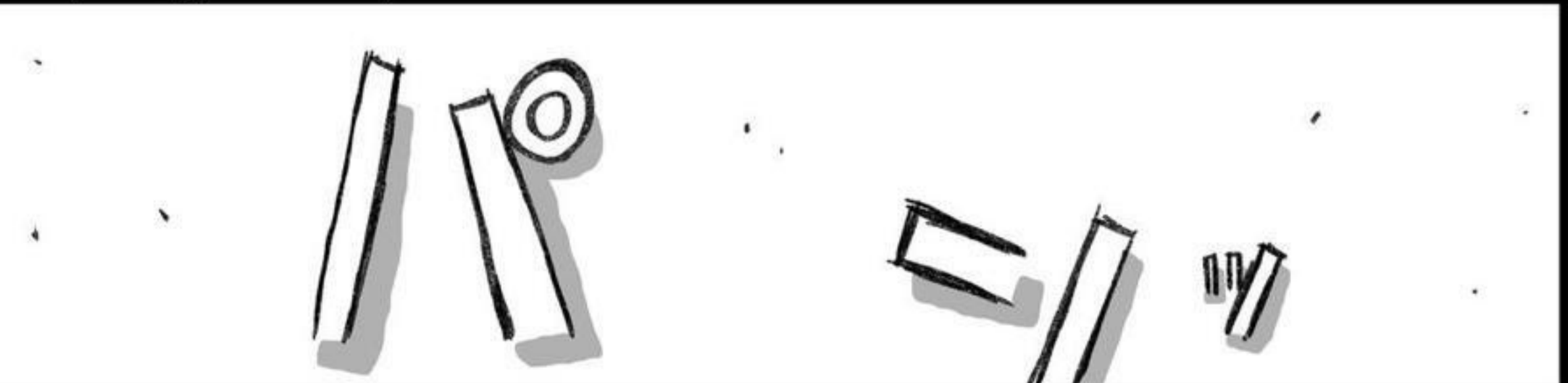
平蔵
きいてほし

万葉？



拙者は
お主の事が

聞きたくない
嫌だ
そんなの
認めたくない





あ……



最低だ



勝手に裏切られた
気になってる
だなんて

理想を押し付けて



平蔵……？

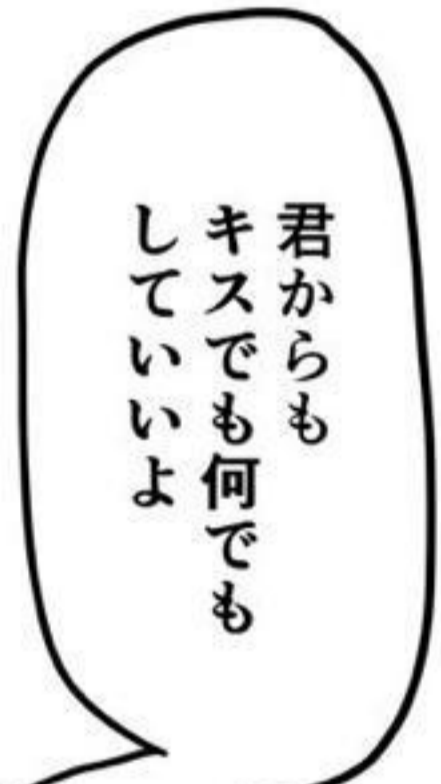
万葉なら
僕を絶対に好きに
なる事はないって



その気にさせてしまったのは
僕なのに



彼を楽に
してあげなきゃ



君からも
キスでも何でも
していいよ



万葉がしたい事
なんでもね



万葉



しかし……っ

僕達はさ





好きだなんて

言えなくなっちゃったね

ごめんね。



万葉

ここだよ

待たせたで
ござるな

んーん
全然

久しぶりに
会えて嬉しいよ

それじゃ
行こっか



万葉
みて

クワの実
だよ



桑原桑原
でござるか

そうだけど
そうじゃない
でしょ



君には新鮮な味を
飲んで貰おうと
思ってたね



これはお茶に
する為を持って
きたんだ

あれ以来
平蔵が触れ合いを
求めてくることは
なくなり

そのような言動の
一切もなくなった

「全ては僕のひとりよがり
だった」と彼は言っていたが

拙者は
そう思わない

平蔵が気付かせて
こなければ

平蔵がいなければ
こんな想いにはならなかったのだ

お主がくれた
あの胸の熱を
忘れた日はない



だからまた
平蔵の気持ちに
向き合わせて欲しい

答えさせてくれ

今度こそは



彼に好きだと言って
許されるのだろうか？



もしも本来の好きと
向き合えたなら



万葉みて
あっちに…

あ





万葉？





平蔵
大変でござる…



獣の耳が
生えてきて
しまった…

かわいい











これでどちらが
猫かわからぬな？

視覚的に
どう考えても
一目瞭然じや…

わー！！

はむ

後日

伝染った

意外と便利だなこれ
耳のまこえ良い

